

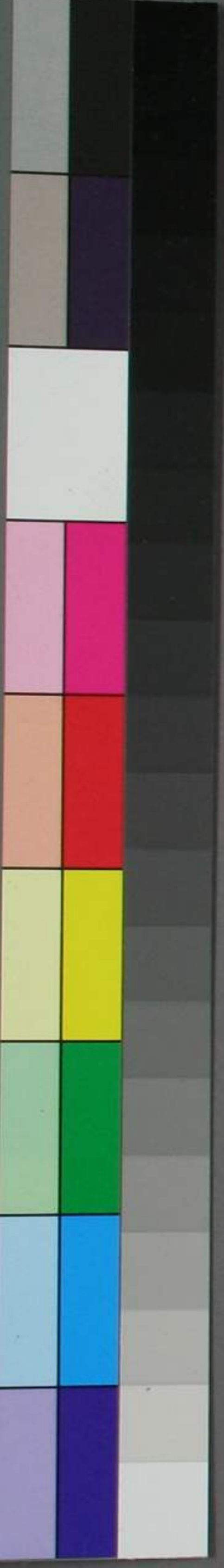
KODAK
LICENSED PRODUCT

M

Y

C

KODAK Gray Scale



洗湯手引草

都下書籍ノ類ハ古切有拍ハキリ撮ト他方ハ
 傳ハ入レカシテ強ク佛ノ經ノ類ハ教ノ年ノ間
 心ノ御ノ進ノ々ノ買ノ集ノヲノ維持ノ者ノ也ノ乃ハ下ノ落ノ代ノ者
 毎ノ年ノ差ノ以ノ圓ノノノ出ノ倉ノヲノ忘ノルノ之ノ下ノ冊ノヲノ檢ノ査ノ
 此ノ方ノ注ノ意ノヲノ尚ノ事ノ一ノ

明治三十二年三月 皇野波 印

工 拍屋 宗 八
 河原町

76
 3771



門 96
號 3771
卷

目錄

- 洗湯之由来
- 湯屋番組大意
- 同十組刻月
- 大納事須番附
- 湯屋萬年曆
- 中昔湯屋諸真記
- 見世法度書之事
- 湯屋頭法度書
- 湯屋鋪金澄文事
- 同賣湯屋文事
- 薪賞出之早刻附
- 奉公人清快之事
- 同引取一札之事
- 諸薪古本之詳刻
- 同車之積込之負數
- 松文詳刻直尺附
- 三寶日記之事

早稲田 大學 図書館
225.31
蔵書



湯屋の業不^レ定^レ人^レ城^レ少^レ事^レり
 捷徑の教^レ好^レる^レ事^レ一^レ甚^レ危^レ如^レ何^レと
 裸^レ子^レ好^レる^レ天^レ地^レ自^レ然^レ乃^レ道^レ理
 二^レ知^レ者^レ一^レ不^レ知^レ者^レ一^レ不^レ知^レ者^レ一^レ不^レ知^レ者^レ
 十^レ德^レ著^レる^レ事^レ一^レ不^レ知^レ者^レ一^レ不^レ知^レ者^レ
 権^レ如^レ事^レの

此の如き人々のも於坊さんのも吾侪も
産すまは客すて情し欲し等西
の海をさうり無欲のかしら也欲垢
と梵腦とあゝ清めて洋湯を
浴せし且好様の檀伽も孰れも
同く裸身佛きつゝの老人茂風呂

這まは吾もさうぞ念佛題目もあ
白く見たり使客も裸り好れはあを
持てて已々物とまう猛き武士の
あゝまかゝ湯を裁しても人込
と堪忍地すう石榴口をさう
無き先ふまひと居るの是洗湯

乃徳をくすむ事もむざんでけいめ
てもやあき事しとせぬ、則洗湯
くくろさむせしれはま、残湯より五常
の道あり湯とて身とあつたあ塘、残
落し病と治し、差別と体の疾をせん
まかゆ、疾とあひま、毛髪とつらう、母

めるの、是別仁あり、ずや小桶のお明を
くくろさむせしれはま、残湯より五常
番桶と我、修しきつと、又急で、明を貸
たむし、懸念の仁より、湯で、表、杯、是、又、全
義也、田舎者で、ま、ひ、た、物、で、ま、ひ、免
好む、心、式、は、お、ひ、ま、り、を、心、先、と、遠、心、式、を

お静々^{しずか}に置^おけ^る林^{はやし}邊^へ改^かめ^るの^の町^{まち}邊^へに^に接^つ接^つ
する^す、則^{すなは}決^けて^て糠^{ぬか}あ^らる^ると^と種^こ之^の或^{ある}を^を綠^{ろく}瓜^かの^の
皮^{かわ}を^を落^おち^す、石^{いし}を^を落^おち^すて^て毛^けを^を切^きり^ぬぐ^ぐ
身^み揃^{そろ}て^て髪^{かみ}形^{かたち}成^{なり}ま^すた^たま^まし^し別^{わか}別^{わか}也^{なり}
湯^ゆが^が集^あり^て以^もて^て水^{みづ}と^とめ^めぬ^ぬく^くし^しと^と湯^ゆ
を^をめ^め互^{たが}り^り脊^せ中^{ちゆう}を^をぬ^ぬぐ^ぐ、あ^あひ^ひ老^らる^る

仁^{ひと}ま^ま、湯^ゆを^を汲^くり^りた^たま^まし^し別^{わか}信^{しん}也^{なり}か^か
舟^{ふね}生^なる^る海^{うみ}邊^へに^に水^{みづ}舟^{ふね}の^の排^は陸^{りく}湯^ゆ
の^の桶^{おけ}を^を西^{にし}方^{かた}圓^まに^に随^{したが}ひ^ひ道^{みち}程^{ほど}を^を能^よく^く持^も
て^て流^{なが}る^るに^に板^{いた}を^をめ^めく^く己^{おの}れ^れの^の心^{こころ}を^を常^{つね}に^に
磨^ひ練^{れん}す^すの^の垢^{あか}を^を大^{おほ}き^き事^{こと}ぬ^ぬれ^れ、^の
道^{みち}月^{つき}城^{しろ}を^を舟^{ふね}に^に騎^かり^り、^の
風^{かぜ}を^を立^たて^てバ^バ何^{なん}だ^{だい}

ち何時あんときも早はや仕し事こと也なり五倫ごりん五体ごたいを
天地てんちの季きの願ねがも此こゝ大切たいせつと氣き持も持も系けい
之これ市しも見み世よ先せん万ま事じも心こころを存ぞんすべし喧けん嘩くわ
只ただ論ろん喜き也なり哀あい樂らくの高たか幸こう也なり毎まい日にちの
文ぶん言ごんを以もつて守まもりてよ呼よびし呼よびし席せき又またと
湯ゆを以もつてよ日にちの催ひら促そくすべしかある

且かつ学がく者ものの見みる者ものもあらざれば柱はしらが長なが
くも筆ふで成な採とくべしといふ事こともあらず也なり
右みぎ道みちも知しる上うへにしゆに湯ゆをあらわすべしといふ
望のぞ

嘉永四年庚申九月

當時凡来山人

白海真等琳

志し



洗湯の由来

人皇四十五代聖武皇帝仁徳の
 君は佛にまゐりて皇后も専ら佛
 法を信じて勢を由ひて身の仏
 舎建僧を供養し終ひ大衆
 根穢を清くす憐れを念ふた

雪山等琳
畫



佛神擁護法奇
特あゝを體御身よ事光明
耀きけき、母乃人光の皇后也あか
免ちあり、事志かる、即身白
佛あり、急慢衆障礙、事
先の事、母乃清史、母乃に

木、後大、大慈乃
悲願を、散華、能破風造の
浴室、成夢、み千人、能垢を、あ
清之、給まん、と誓ひ、自、往來
凡下、如、旅人、を、わ、る、流
事、大、事、を、ち、古、く、あ、事、け

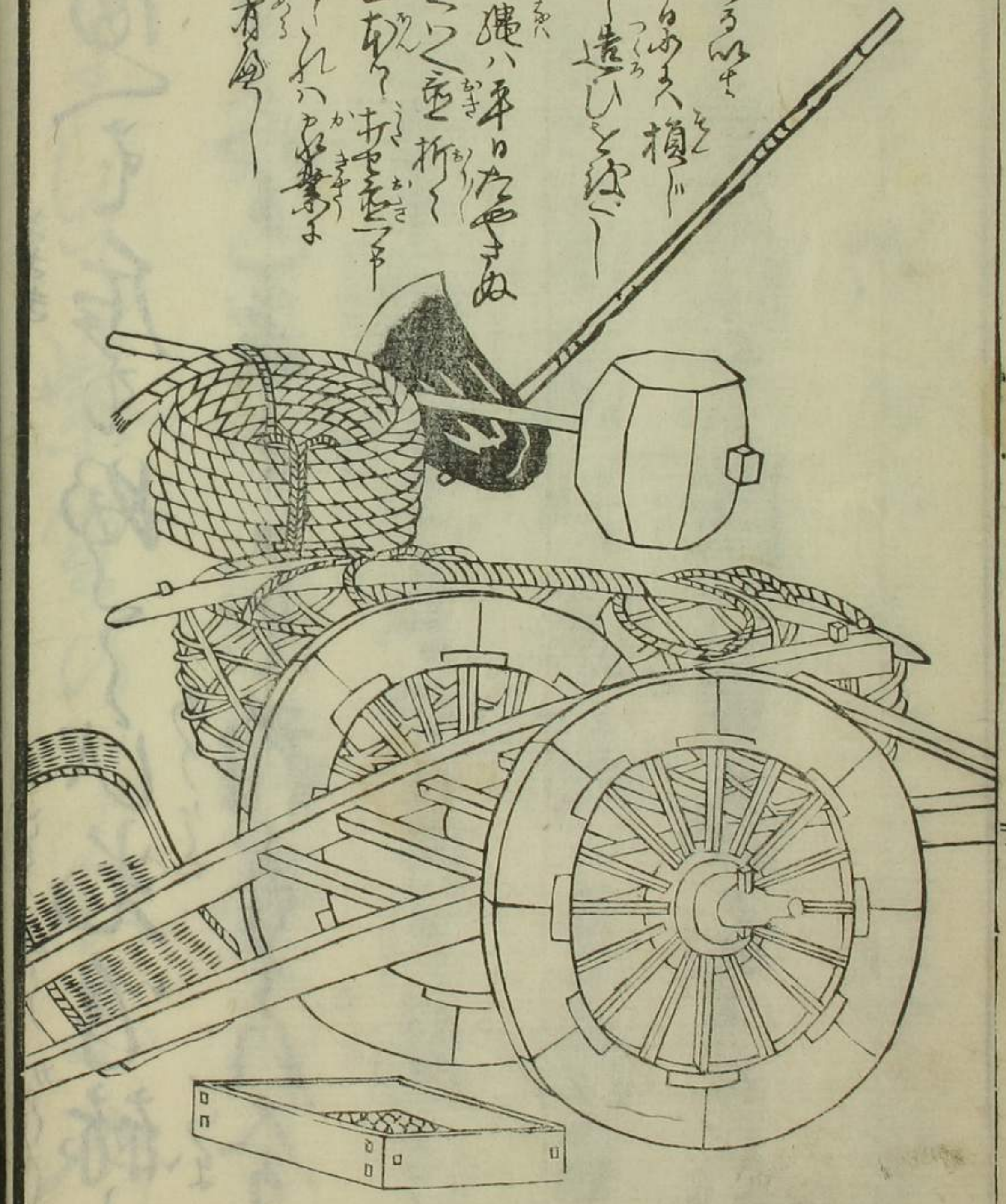
此丸をく籠も九百九十九人の数も
満く七き人なりて大願成就
至れども勿れとて帝まき人死
乞弓人出来多祭纏身大まき
徂血係まき一可喫等堪がく
多々の室女鼻を掩じかこく

小多敷もたきくは年一后是城も
以心ひ給まきくは情悲願を室
世人と事自汚穢乃舊垢と流
浄め半由ひまき不乞弓信然也
しとく家瘡痲痺く堪がく
口より吸也とてあまはく人面也

以て本^{キヤキ}後^{キヤキ}の^{キヤキ}ど^{キヤキ}み^{キヤキ}り^{キヤキ}海^{キヤキ}勢^{キヤキ}
こ^{キヤキ}心^{キヤキ}ど^{キヤキ}と^{キヤキ}惡^{キヤキ}極^{キヤキ}を^{キヤキ}吸^{キヤキ}ひ^{キヤキ}多^{キヤキ}ま^{キヤキ}る^{キヤキ}
ん^{キヤキ}と^{キヤキ}た^{キヤキ}も^{キヤキ}よ^{キヤキ}肉^{キヤキ}り^{キヤキ}乞^{キヤキ}弓^{キヤキ}の^{キヤキ}身^{キヤキ}
金^{キヤキ}色^{キヤキ}の^{キヤキ}ひ^{キヤキ}り^{キヤキ}城^{キヤキ}は^{キヤキ}あ^{キヤキ}ら
善^{キヤキ}哉^{キヤキ}我^{キヤキ}の^{キヤキ}東^{キヤキ}方^{キヤキ}阿^{キヤキ}闍^{キヤキ}佛^{キヤキ}好^{キヤキ}む^{キヤキ}と
能^{キヤキ}く^{キヤキ}ま^{キヤキ}ひ^{キヤキ}て^{キヤキ}紫^{キヤキ}雲^{キヤキ}の^{キヤキ}く^{キヤキ}も^{キヤキ}ふ^{キヤキ}入^{キヤキ}

半^{キヤキ}海^{キヤキ}も^{キヤキ}后^{キヤキ}も^{キヤキ}好^{キヤキ}む^{キヤキ}と^{キヤキ}び^{キヤキ}光^{キヤキ}明^{キヤキ}赫^{キヤキ}
と^{キヤキ}あ^{キヤキ}く^{キヤキ}の^{キヤキ}道^{キヤキ}帝^{キヤキ}の^{キヤキ}こ^{キヤキ}と^{キヤキ}難^{キヤキ}有^{キヤキ}ん^{キヤキ}今^{キヤキ}
其^{キヤキ}事^{キヤキ}蹟^{キヤキ}を^{キヤキ}良^{キヤキ}の^{キヤキ}里^{キヤキ}に^{キヤキ}好^{キヤキ}む^{キヤキ}
之^{キヤキ}類^{キヤキ}を^{キヤキ}洗^{キヤキ}湯^{キヤキ}法^{キヤキ}濫^{キヤキ}觴^{キヤキ}を^{キヤキ}凡^{キヤキ}俗^{キヤキ}
の^{キヤキ}よ^{キヤキ}破^{キヤキ}瓦^{キヤキ}を^{キヤキ}附^{キヤキ}由^{キヤキ}來^{キヤキ}る^{キヤキ}を^{キヤキ}好^{キヤキ}

右ノ道具ヨリ
 両脚ノ体ハ木ノ根
 以テ成リ造ヒトス
 井戸綱ノ繩ハ平リカキ
 今ヤタノ之ヲ折
 朝飯ノ小一ツヲ
 若是トカレハ
 手ノ支ル事有命



此湯語教ハ湯女意觀世音洗湯名
 規則多ク新氏孔釜火ナク
 定規ノ比喩方便也湯澤山清水流
 洗湯寺沐浴上人トハ湯屋ノ
 一也 衛生多ク人ト如是我聞ト授リ終不
 誓ミ此湯寺ナリ

心とみれあをい流に湯屋とせむ

薪の押しつけ頼しはう那

平生れ身もらふけや風をさ

新湯屋のこは能をく借よむげ

湯桶教たもるに書と暗記せぬ

自高意の意よけい謙の道不

玉るる一板と新と割り脊中張

たがをに手間と毛湯屋とるまの

奴婿と使ふ主人ふは書張讀しむ

庭と賢人免かき事綜し紙

眼とが穴とえんを可く禪監孔

庭あふ紙戲書とあかかきふ

書一白癩を如く人の識るむ
と紙所にも獲てくまうと思ひ
かろくなく跟の厚皮をさしと
ふれしとくもわたり鳴呼
湯あがりには湯屋に紅糸を
史如竹枝をせり

湯 話 教

藪高故不焚多分
株肥故頑今不令
湯至者是一中欺
湯株是万代之欺

以有古本藪高貴
以有客教多富貴
此減則子株自成
今終西必勿減更

湯を不磨之光澤

石垣不磨糖汁穢

風呂内湯有減更

雜積一日之現金

空高賣常不引合

之老常客入

赤酸湯を常盤昌

井之内水有減

不如一日之薪石

夏之内心掛而残

釜厚永不換漏塵

一日薪一本除焚

一本不味助教日

故客斗不除塵

石は砂云如子足之

釜厚是為財物全

三百一拾本虛焚

次一廿教年換字

人附而不可換釜底

朝夕客客是也想

天日く遠盜賊

心神夜く為者旁

透時之息不能蕃

盜而後難恨悔亦

猶言识主主不益

故其眠僅勿番息

添番是居增眠

以途中之番勿息

憐湯衣常也合氣

面向能西心用針

我他人之取德意

他人亦我取德之

足福未不成高貴

亦其虫之如入火

泰平國恩如天地

德澤如海世為境

椽之山彩如日月

手落如映子原彩

水之恩者深泛海

上水甚渴之如冰

堀井之夏冷を温

深井戸経平三夏替

新之徳者高徒山

徒本訥新徒海新

将放二人下押

大勢押終成喧嘩

三賢は捨除る後

乞之徒之為埋弟

弱我弱我の商賣

山花之山之利也

少湯浅子供引連

擬八文湯淺如流

有快言者有温灸

真似本真唱念佛

唱酒如神海猫理

持此而成尖棧之

終撤小桶湯為結

或風呂中放以雲

至是况控石盜泥

借是物文以水止

慈不人情軍平臥

汲中湯人為忠想

子佐判月代泣真

既培雪于今多之

況多雜喧く劇

從朝暗肉未戸櫛

夏凌暑者冬防室

氣從杖從仕次才

乞者人皆言暖之

害者店之妻は成

女髮洗不延穠密

裸許延禮義為長湯

小桶專際也引階

唱嫁姑成沢高臥

從色未片多方謂

亦晚之柔柳撥

一日之休国事之願

安哉安哉以高賣

暖之時必未其害

有言書附店長也

才木和忍厚寸准堪忍

日く新亦新仕込

鉄炮鞘際八步板

若松附巾泥下拂

風呂三寸以前杓

六ツ鐘若枝諸芸

風呂内上は逆出頃

板間之深悪見込

座法禪坐言わ浄

有出頃述至今者

湯盆尻板回下水

水行わ浄為下炊

火袋巾建上塗家

害西北煙吐東南

困煙除悪火用心

仗每火袋煤下拂

泥金若右換赤漆糸

縦糸若右仕者縫客

埃松人云筆下落藝

人給金之両仕

秋亦增給金仕七兩

故增長反高給金

好雨降之仕九体

自不儀掛抱正仕

公道雖多湯屋

所謂虎狼如家養

日新多集為定眠

撞虛病秋踏給金

逐己貪欲却拓禍

湛有不必成高賣

交年所到而不離

涉觸飯堅不相守

風烈時早不仕率

生碎病上者不形

但有湯屋有仲間

家業安及如泰山

男女入以不停止

惡補病解穿不入

頰冠抱之物不禁

有仲間有法有法

有祇定之祇定成株

唯快引究増揚金

故天國滿時成款

文化成辰額至五月

額叶定仲間十組

雖然額人為達已此

湯株頂上而成高金

變少額之少段端

庚午舉月中日

丹誠株少元三年

當天保十三壬寅

嗚呼天然時成款

湯株猶如石生之

難然障回士念

湯屋之文難憑託

五月三日湯株減

奈小人湯價定八割

新湯出争二龍玉

猶株面亦有其因

但守眞利在掛引

他家業不紐意味

猶不忘小道淺足

終此莫離此高貴

笑人之用心勿忘

故末代湯至之尻

先世書之見紙附

見者誹謗而不識

聞者笑罵而不笑

湯 詔 教 終

大意略

湯至仲間番組爰文化五辰年三月朔日北

小田切土佐守様惣代横山町三丁目柳屋浪藏米沢町

幸丁目高橋屋次房右場本石町幸丁目芦川屋次房右場

願出同七年辛卯月十八日湯内奉命ト南

根岸肥前守様沙立合右三人迄 石出願之通

次身湯内湯至十組定左之通

湯至十組別附男女風呂負致

一番組

本町組

男十二
女八
一
株

合十一株

泉橋組

男六
女七
二
株

合十二株

堺町組

男八
女三
株

合十一株

中橋組

男八
女七
株

合十五株

濱高組

男七
女七
株

合

系橋組

男八
女十三
株

合二十一株

東神田組

男八
女二
株

合十株

八堀組

男六
女十六
株

合二十二株

西神田組

男七
女九
株

合十七株

吳巖為組

男八
女一
株

合九株

合六組七十六株

合六組八十三株

三番組

芝口組

男十
女二十
株

合三十株

外神田組

男十
女一
株

合十一株

四番組

下谷組

男五
女一
株

合六株

西之保組

男五
女四
株

合九株

本郷組

男十一
女一
株

合

麻布組

男九
女七
株

合十六株

根津組

男八
女三
株

合十一株

合三組四十七株

合四組二十九株

六番組

口組 法系かや町
男女五株
男七株
女一株

合十七株

六番組

深川南組 男女十七株
男女一七株
同北組 男女八株
合

奥組 観音系
男女二十株
男一七株
女一株

合二十七株

本南組 男女二十株
合

合二組三十四株

同北組 男女十六株
合

合四組六十六株

七番組

醫町組 男女一七株
男女一七株
合三株

八番組

令杉組 男女二四株
男女二四株
合六株

税町組 男女三六株
男女三六株
合九株

三田組 男女一三株
男女一三株
合九株

赤坂組 男女八株
男女八株
合

西組 男女九株
男女九株
合十二株

青山組 男女七株
男女七株
合

南組 男女十一株
男女十一株
合十七株

麻布組 男女五株
男女五株
合

市谷組 男女十七株
男女十七株
合十七株

合七組七十株

合四組四十四株

才六の番
同十箇二月止

村井屋次郎
妻屋屋次郎

初と隠し湯に入らるゝ女
一 豊天保の初と隠し湯に入らるゝ女

才七の番
同九月止

伊勢屋仁三郎
伊勢屋惣三郎

子て池の二回
一 明和の村と湯屋大人と子供

才八の番
同三月止

美松屋権八
美松屋権八

あふとては又入らるゝ女
一 寛政三五年正月七日世の中

才九の番
同九月止

藤田屋七次郎
伊勢屋長三郎

大人十又子供八とお定
一 寛政三五年正月七日世の中

才十の番
同二月止

福井屋九郎
下野屋十次郎

一 寛政三五年正月七日世の中

才十一の番
同九月止

美濃屋孫三郎
武蔵屋五七

一 寛政三五年正月七日世の中

才十二の番
同十二月止

伊勢屋市七郎
池田屋新七

一 寛政三五年正月七日世の中

才十三の番
同九月止

伊勢屋忠三郎
大坂屋清三郎

一 寛政三五年正月七日世の中

才十四の番
同十二月止

山城屋六三郎
和泉屋忠七郎

一 文化三五年三月廿日世の中

才十五の番
同九月止

伊勢屋忠七郎
川井屋源七郎

一 文化三五年三月廿日世の中

才十六の番
文政元年止

山城屋忠七郎
樫屋清三郎

一 文化三五年三月廿日世の中

才十七の番
同十二月止

依勢屋良三郎
岩子屋次郎

一 文化三五年三月廿日世の中

十八七番
同日九月止

平川屋清三郎
友 五郎右衛門

お焚三十組の湯をよりおひ取
あよびお止む

十九八番
同日九月止

廣念堂又八
友 五郎右衛門

一文化八未年八月より埃拾ひ集つて
不^くの湯をより埃拾ひ集つて

二十九番
同日九月止

福井屋九郎右衛門
健 五郎右衛門

一文政三辰年法五を^り作^りて諸色^を
下^りに^し 作^り出^し湯^を積^み人^を九^り又^に
湯^を何^れと^もと^りぬ^る。

二十番
同日九月止

武尾屋五郎
山本屋五郎

一文政五年年土月風呂の櫛^を破^り子の
秋^に戸^を閉^じ止^むお^のぬ^る。

廿二番
同日九月止

住持屋中三郎
住持屋五郎

一文政十二年三月江戸中大火^{より}して
一番二番三番九番七^り内の湯を
百^{二十}六^軒焼^き失^せぬ^る。

廿三番
同日九月止

加賀屋定七
体入屋五郎

一文政の末^に流^る一^枚の^りより汲^り置^れと^り
る^りと^りぬ^る。

廿四番
同日九月止

住持屋三郎
扇屋五郎

一文政の末^に流^る一^枚の^りより汲^り置^れと^り
る^りと^りぬ^る。

廿五番
同日九月止

三河屋五郎
加賀屋小五郎

一天保元年辰年二番組と六番組と流木
一^り出^し入^りお^のび^に細^い高^き勝^りお^のぬ^る。

廿六番
同日九月止

住持屋助七
長谷川屋五郎

一天保三辰年の辰^の年^の子^は徳^と入^り
宣^しや^りと^り風呂^の内^に上^りふ^り候^につ^ける

廿七番
同日九月止

川原屋市三郎
常陸屋次郎

一天保五年年証^を出^し改^め一^り組^と三^番組^と
一^り組^と外^に九^組と^り練^りを^あひ^ひ三^年と^り
し^て湯^をお^しむ

廿八七番
同日九月止

安土屋市三郎
加賀屋五郎

一天保十年年より自^ら湯^をせん
十^りの^り文^政同^十二^年中^に改^めぬ^る。

廿九八番
同日九月止

誠意屋文七
誠意屋五郎

一天保十年年より自^ら湯^をせん
十^りの^り文^政同^十二^年中^に改^めぬ^る。

三十九番
同八月三日止

大庄屋長左衛門
後河原長左衛門

元二十番
同九月止

山本屋長左衛門
伊勢屋徳四郎

元二番
同九月止

和泉屋平八
松屋全七

元三番
同九月止

河島屋徳助
中屋全七

元四番
同十月三日止

浦中屋徳助
油屋全七

元五番
同九月止

三河屋長左衛門
伊勢屋全七

元六番
同十月三日止

山本屋長左衛門
伊勢屋全七

元七番
同九月止

中島屋利助
麻島屋長左衛門

元八番
同十月三日止

沢屋長左衛門
伊勢屋長左衛門

元九番
同九月止

漢金屋又八
新屋全八

元十番
天保元年三月止

大野屋長左衛門
伊勢屋全七

元十一番
同九月止

山本屋長左衛門
伊勢屋全七

作出の旨お上り

一天保十二年十二月沙段陣出

諸機走遊り取法一よりお取置

正月十八日湯浅大人小人取置

去又よりお上り

一市中港湯浅後去貞年中迄

大人小人吃去又より取置

其外諸色遊り取置

本約会より大人小人取置

一文取置沙汰取置

一統一文取置

其外諸色遊り取置

引合並難湯浅の旨

小伏屋又より文取置

下取置取置

中上取置

下取置

湯浅の旨

取置

取置

取置

元化三年年中

早十二番
同日三月止

吉村屋長吉坊
吉村屋利吉坊

早十三番
同日九月止

大黒屋長吉坊
磯村屋長吉坊

早十四番
同日九月止

多田屋長吉坊
伊勢屋長吉坊

早十五番
同日九月止

加賀屋長吉坊
伊勢屋長吉坊

早十六番
同日九月止

和泉屋長吉坊
極屋長吉坊

早十七番
同日九月止

大和屋長吉坊
伊勢屋長吉坊

早十八番
同日九月止

伏見屋長吉坊
美屋長吉坊

早十九番
同日九月止

村田屋長吉坊
極屋長吉坊

早二十番
同日九月止

松田屋長吉坊
磯屋長吉坊

早二十一番
同日九月止

山本屋長吉坊
磯屋長吉坊

早二十二番
同日九月止

磯屋長吉坊
磯屋長吉坊

早二十三番
同日九月止

磯屋長吉坊
磯屋長吉坊

右に於て九日市中法掛り公に
作後しる言達し湯屋長吉坊に世先お
湯松の致松出取申すことありし上

午六月朔日

組合
清色掛

定
店法交書之事

一 津之儀様法交之儀長吉坊に觸る
急にお守り下中事

一 火之儀大切にお守り下中事
一 男女入湯止り下中事

一 風烈に於て行儀の制限お仕事
下中事

一 金銀を引外に大切にお守り下中事
一 金銀を引外に大切にお守り下中事

一 湯屋長吉坊に於てお守り下中事
一 湯屋長吉坊に於てお守り下中事

一 湯屋長吉坊に於てお守り下中事
一 湯屋長吉坊に於てお守り下中事

一 湯屋長吉坊に於てお守り下中事
一 湯屋長吉坊に於てお守り下中事

一 湯屋長吉坊に於てお守り下中事
一 湯屋長吉坊に於てお守り下中事

卒七番
同九月止

按津屋五郎
有田屋五郎

一守せまのふね交新米出給へ候
所用の事

卒六番
同九月止

伊勢屋七郎
和泉屋七郎

一守り物一切は事
右通水組より入湯より以上

卒五番
同九月止

和泉屋七郎
榎屋七郎

月日 但男湯より

卒七番
同九月止

お換屋七郎
大和屋七郎

定
一沖の儀様法法交後かあおる

卒七番
同九月止

酒巻屋七郎
榎屋七郎

一火のこも大切にお湯より事

卒九番
同九月止

按津屋七郎
多屋七郎

一男女入湯止り候事
一風をげり候事

卒九番
同九月止

大井屋七郎
かき屋七郎

お仕度より

卒十番
同九月止

山本屋七郎
山本屋七郎

一湯の儀様法法交後かあおる

卒三番
同九月止

誠屋七郎
十一屋七郎

一衣の儀様法法交後かあおる

卒三番
同九月止

武蔵屋七郎
京屋七郎

一うせまのふねあづかり物一切

卒三番
同九月止

仲屋七郎
伊勢屋七郎

月日 但女湯より

大行事 半年物より

湯の儀様法法交後かあおる

六十日代お續せ文化七
 半辛丑月十八日番組
 定り天保十三亥年
 三月三日湯楳城却せ
 年致三十三辛丑
 大河事諸帳面簿
 三番組公口番組抄渡

勤賞出—平割附

一五ノ下 五十一

一五ノ九ノ 五十一
 一六ノ 六十一
 一九ノ 六十一
 一八ノ 七十
 一七ノ 八十
 一六ノ 九十
 一五ノ 九十

文人の... 何町何丁目
 家... 男女...
 湯... 高... 道具...
 紙... 湯...
 給... 小... 湯...
 何... 下... 文... 金...

一宗... 那... 何... 且...
 一... 大... 被...
 一... 事... 帳... 云... 作... 一... 事... 一... 宗... 那... 何... 且...

一 五ノ下六ノ毛 二百六十
 一 五ノ下六ノ二毛 二百七十
 一 五ノ下六ノ八毛 二百八十
 一 五ノ下六ノ四毛 二百九十
 一 五ノ下六ノ一ノ 四百
 一 五ノ下六ノ六毛 四百十
 一 五ノ下六ノ九毛 四百二十
 一 五ノ下六ノ六毛 四百四十

那之紛蓋座の刻寺の形模方有
 蓋の出入用之蓋の何の古も多
 下の趣も何者後何極之六蓋出入
 跡出未定然則之文意も坊の事
 少も蓋の芳抄掛の中も蓋の且以之
 定之何の事年以任仕下は此院文
 也然則之人の抄蓋蓋座の高屋目録
 状仍も如件

年号月日

何町雜店
 文人雜
 人主雜

引取中一札之事

一 五ノ下二ノ毛 四百五十
 一 五ノ下三ノ 四百六十
 一 五ノ下四ノ七毛 四百七十
 一 五ノ下四ノ八毛 四百八十
 一 五ノ下四ノ九毛 四百九十
 一 五ノ下四ノ一ノ 五百
 一 五ノ下四ノ七毛 五百十
 一 五ノ下四ノ八毛 五百二十
 一 五ノ下四ノ九毛 五百四十

一 禁傳人、抄之末及方、此の事、蓋の蓋
 惟後、蓋の眼、下、為人、蓋、雜、坊、在、引
 取、之、如、模、引、取、中、の、蓋、上、の、字、集、の、者
 後、何、何、極、之、後、跡、出、未、定、然、則、之、文、意、も、坊、の、事
 少、も、蓋、の、芳、抄、掛、の、中、も、蓋、の、且、以、之、
 定、之、何、の、事、年、以、任、仕、下、は、此、院、文、
 也、然、則、之、人、の、抄、蓋、蓋、座、の、高、屋、目、録、
 状、仍、も、如、件

年号月日

何町雜店
 文人雜

諸本蓋部古本坪刻之事

五ノ下四ノ坪

橋
 長
 間

右行極之、何同何歩、高中長掛、
 後、後、本、大、八、人、引、取、車、引、取、後、

- 一 一ト一毛 六百一十
- 一 一ト一毛 六百一十
- 一 一ト一毛 六百一十
- 一 一ト一毛 六百一十
- 一 一ト一毛 六百一十
- 一 一ト一毛 六百一十
- 一 一ト一毛 六百一十
- 一 一ト一毛 六百一十
- 一 一ト一毛 六百一十
- 一 一ト一毛 六百一十

右荒増入用斗餘八階

右来書面通に作渡官友と通

悪きと切ホ上車路に後通
 一 弘化二年松本新なる以房州
 松切百と百七拾本費とととと
 一 常陸下総松本所約ととと
 一 浦松力兩並百拾本費ととと
 一 船賃車力銀百拾本ととと
 一 常陸下総松本所約ととと
 一 兩月三百十賞ととと
 一 右松本ととと
 一 緒本島切ととと

一 拙者手に浦を分都小都一の仕方のととと
 一 湯島の路八天正此以伊勢國山回りてととと
 一 送るの樂談を文と入湯ととと
 一 寛文二寅年大傳言湯島に在る所
 一 湯奉行所は 乙出友と通に 作渡に
 一 拙女を抱置りてととと
 一 湯島を分咽とつ時よりととと
 一 右三ヶ條 湯船流一は 作付ととと
 一 延宝三酉年十月前文 湯船流一有之
 一 元禄十二年六月前書に在るは又前文湯船流一は 作付に

一 享保十一年八月廿六日横山町に新規湯釜を建致し者有之に是處を見
ゆる出役人方由人出役隣町長隣人有之付由是處留置候
一 享和三年十一月申町 御觸左通

町中言新規湯釜迄世お触れ言是と 奉行所は款出紀の上付付に
いふに款出に及ぶ有未の湯釜迄後世長隣にお触れ候熟談におび長支
出之を町長方にお出是當の更にお先達にお觸れ通男女入込湯釜を被る
因後世にものをお触れに合若内之入込湯釜に付もの有るにりくの款出紀上
急交知の付

右通 御奉行所へ 作後由町中湯釜迄世にものをお及中
家持備を致しとに御触れ可お觸れ
享和三年十一月 町長 役 所

安政四巳年三月廿三町 御觸左通

町中言新規湯釜迄世お触れ言是と 奉行所は款出紀の上付付に
いふに款出に及ぶ有未の湯釜迄後世長隣にお触れ候熟談におび長支
出之を町長方にお出是當の更にお先達にお觸れ通男女入込湯釜を被る
因後世にものをお触れに合若内之入込湯釜に付もの有るにりくの款出紀上
急交知の付

安政五年 年八月初日

南北小口奉番

三番組

本南督町

捨西市下

品川町

庄左衛門

本根町

惣 花

三番組

新桑物町

三番隊

小傳馬町

安一市後見

五市三郎

四番組

西沼屋町

清 庄衛門

坂本町

新 助

三番組

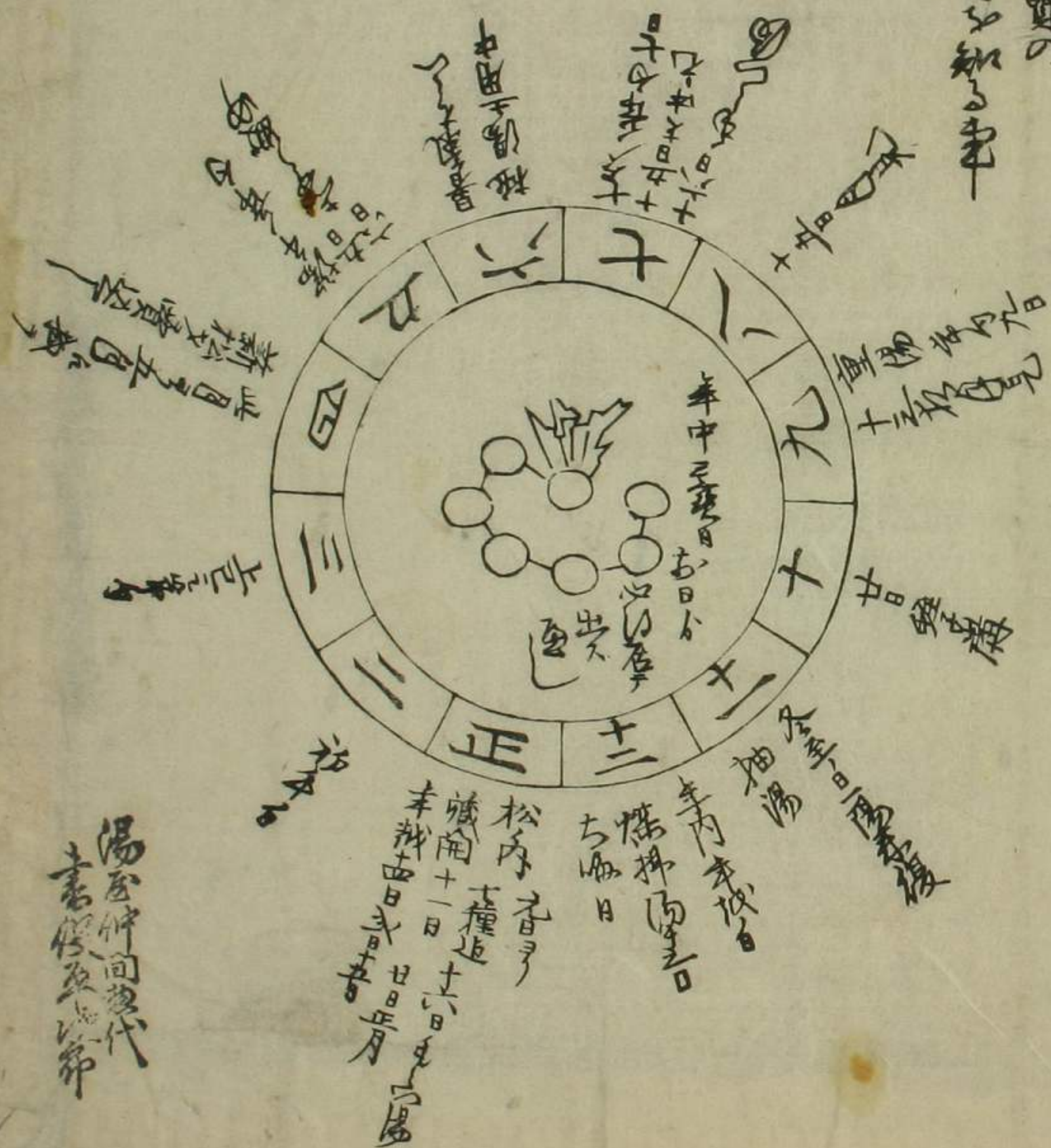
神田多西平目

控 庄衛門

嘉永四年正月

三寶の例

日知の事



湯屋仲間代
書信及次第

15772

星野

石通に 竹渡を畏れ仍り如件

嘉永四年二月廿日

石通北 竹番所

竹白海 井上信濃守様

兼湯屋世々々々の白前書

竹渡は市中各支配限り湯屋

竹渡は市中各支配限り湯屋

石門町

石門町

四人

千
仞
松